

◎実践例 ～被災地見学学習～

矢巾町立矢巾東小学校

【单元名】「私たちの未来へ」

【ねらい】

○被災地を実際に見学し、被災当時の学校の状況や復興のために活動している方の話を聞くことを通して、復興に向けて自らできることや将来の生き方を考え、全校児童や家庭、地域に発信することができる。

○仮設住宅に暮らす方々と交流することにより、被災地の現状や復興にかけ人々の思いを知ると共に、地域社会に役立つことの喜びを感じ取ることができる。

【「いわての復興教育」との主な関連】

1【いきる】	③【価値ある自分】	どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。
2【かかわる】	⑪【ボランティア】	他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。
	⑭【復旧・復興へのあゆみ】	震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。

【実践の概要】

○東日本大震災津波の被害の概要や現状について話し合い、それを基に学習計画を立てる。

○仮設住宅に暮らす方々との交流方法について考え、準備する。

○被災地に行き、被災当時の学校の様子や復興のために活動している方の話を聞いたり、仮設住宅に暮らす方々と交流したりする。

○見学を振り返り、東日本大震災津波にかかわる課題を設定し、調べる。

○グループごとに調べたことや将来の生き方について考えたことをまとめ、発信する。

【被災地見学学習の概要】

○日 時・・・平成25年8月4日(日)

○参加者・・・6年児童、校長、副校長、6年担任、復興教育担当教諭、6年児童の保護者(希望者)

○主な活動内容

- ・旧気仙中学校見学(車窓より)
- ・仮設住宅訪問、交流(マーチングや合唱を披露、花鉢の贈呈)
※保護者・・・記念植樹
- ・元気仙小学校長の講話(被災当時の学校の状況を中心に)
- ・高田松原を守る会の会長の講話(高田松原再生に向けての取組を中心に)

【被災地見学学習の様子】



仮設住宅に暮らす方に花鉢を贈呈する6年児童。花鉢を贈りながら、仮設で暮らすたいへんさをうかがいました。



仮設住宅でマーチングを披露する6年児童。仮設住宅の方々が徐々に増え、多くの皆さんに児童の演奏を聴いていただくことができました。



被災当時の学校の状況を、映像を交えてお話しいただいた元気仙小学校の松村校長先生。穏やかな語り口にも、震災直後の切迫した緊張感が伝わりました。



松村校長先生のお話を聞きながらメモを取る6年児童。このメモをもとに、2学期の調べ学習を行いました。



「奇跡の一本松」がある場所で、高田松原を守る会の会長さんのお話を聞きました。高田松原再生を願う皆さんの熱意を感じることができました。

【児童の感想】

被災地見学学習を行って

6年 中西 裕太郎

ぼくは、8月4日に被災地の陸前高田に見学学習に行きました。

バスから見える風景は、ニュースなどで見た時よりも津波の恐ろしさがよく分かりました。被害を受けた気仙中学校はぬげがらのようでした。津波の力でねじ切れた高田松原の松の木はとても痛そうでした。

この見学で一番心に残っているのは、仮設住宅に行ったことです。マーチングをひろうした時は、きんちょうしてあまりうまくふけませんでしたが、見に来てくれた方々が、笑顔になってくれました。こんなふうに被災地の方々をみんな笑顔にできたらいいなと思いました。

これからぼくは、自分にでもできる復興の助けになる活動を、今実際に活動している人を参考に考えていきたいです。そして、少しでもそれを実行に移して、被災地の復興が進むよう力になりたいです。被災地の方々がもっと笑顔になれる活動をしていきたいです。

【本実践(被災地見学学習)のまとめ】

- 被災地の仮設住宅に暮らす方々との交流を通じて、児童に地域社会に役立つことのよさを実感させることができた。また、被災地の課題を直に捉えさせることができた。
- 被災当時の学校の状況や被災からの復興のために活動している方の話を聞くことを通して、児童自ら復興のためにできることは何かを具体的に考えたり、将来の生き方や職業について考えたりすることができた。
- 本実践は被災地の実状を知り、児童に自らの生き方を振り返り未来の自分のあるべき姿について考えさせることのできる格好の題材ではないかと考える。次年度も実践できるよう考えたい。